

二酸化炭素貯留適地の調査事業

令和4年度予算額 **5.5億円（5.5億円）**

事業の内容

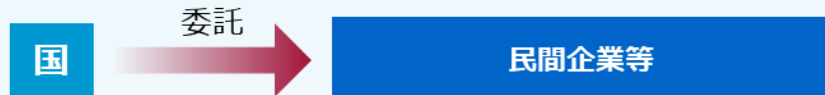
事業目的・概要

- 二酸化炭素回収・貯留(CCS:Carbon dioxide Capture and Storage)技術は、CO2を大量回収・貯留する抜本的な方策として、IEA報告書（2020年）において、世界の累積CO2削減量の約2割を担うことが期待されている。
- 我が国の2050年カーボンニュートラル実現に向け、CCUSの早期の社会への普及を目指す。
- 国内には約2,400億トンのCO2貯留ポテンシャルがあると推定されていますが、あくまでも基礎データに基づく推定であり、個々の候補地点の貯留ポテンシャルを特定するには不十分で、引き続き大きな不確実性が残ります。このため、大きな貯留ポテンシャルを有すると期待される貯留地点において、海底下地質の詳細調査を実施し、貯留性能、遮蔽性能、地質構造の安定性、海洋環境保全の観点から、貯留層のポテンシャル評価を実施する。
- 2030年のCCSの社会実装化に向け、地域の社会受容性、経済性等について調査を行い、総合的な観点から、今後の調査井掘削に適した地点を評価する。
- 本事業は、経済産業省と環境省の連携事業であり、両省共同で事業を実施する。

成果目標

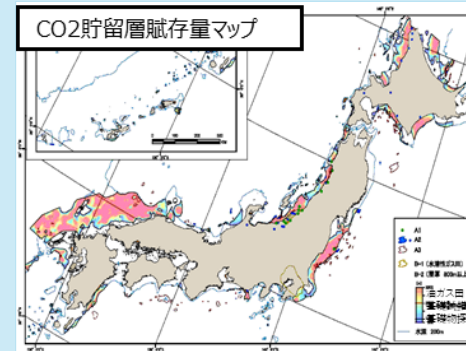
- CO2貯留層ポテンシャル調査・評価の継続に加え、選定された貯留適地候補地点における経済性・社会受容性等の調査を行い、総合的な観点からCO2貯留に適している調査井掘削の候補地を令和5年度頃までに3か所程度選定することを目指す。

条件（対象者、対象行為、補助率等）

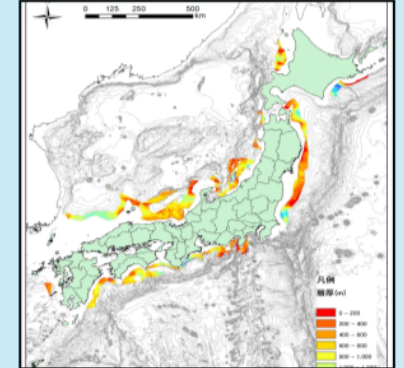


事業イメージ

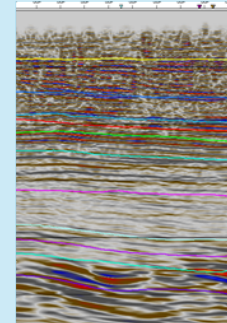
海底下地質の詳細調査



全国貯留層賦存量調査（2005, RITE）



NEDO/AIST（2012）「発電からCO2貯留に至るトータルシステムの評価報告書」



弾性波探査による地層断面図



エアガン発振で生じた水泡

海底下地層の弾性波探査

主な調査実施スケジュール

	平成26年度	～	令和3年度	令和4年度	令和5年度
弾性波探査	←				→
探査データ解析		←			→
挙動予測シミュレーション		←			→
社会受容性等調査				←	→